

当院を受診している患者さんへ

当院では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会で倫理的観点及び科学的観点から中立的かつ公正に審査され、研究機関の長に認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。この研究へのご質問や研究に係る相談だけでなく、個人情報の開示を希望される場合、研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧を希望される場合は、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。研究計画書等は、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で閲覧が可能です。

記

研究課題名	自己フィブリン糊（クリオシール）の導入への取り組みとその効果
研究機関の長（試料・情報の管理責任者）	愛知医科大学病院 病院長 道勇学
研究責任者	（所属）輸血部 （職名）教授 （氏名）中山 享之
研究の対象となる方	2024 年 4 月から 2025 年 3 月までに手術に使用する自己フィブリン糊作成した患者さんおよび作成しなかった（市販製剤を用いた）患者さん
研究期間	研究実施承認日 ～ 2025 年 12 月 31 日
研究目的及び利用方法	〔研究目的〕 フィブリン糊は、手術時の止血処置に有効です。一般的には市販製剤が用いられています。一方で自己フィブリン糊は、止血凝固作用、組織接着作用のみならず、創傷治癒促進や局所感染症予防作用があります。当院も 2024 年 4 月から導入しましたが、実際の費用対効果や、できた自己フィブリン糊の使用状況も踏まえ、自己血採血から使用までの実際を検証する必要があります。本研究では自己フィブリン糊運用が有効か評価することを目的とします。 〔利用方法〕 通常診療の検査で得られた結果を利用します。ヘモグロビン、凝固検査結果、自己血より調整された自己フィブリン糊調整量、調整に要した時間、費用対効果を自己フィブリン糊作製しなかった（市販製剤使用した）群と比較検討します。 〔外部への試料・情報の提供〕 非該当 〔外部への提供開始日〕 非該当
研究に用いる試料・情報の取得方法及び項目	試料：なし 情報：診療情報（診断名、ヘモグロビン、術式等）、凝固検査等検査データ、請求額等を電子カルテより収集
提供する試料・情報を用いる学外の研究責任者	非該当
試料・情報を利用す	非該当

る学外の者	
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2025 年 9 月 30 日までに下記問い合わせ先まで申し出てください。
外国への試料・情報の提供	非該当
問い合わせ先	愛知医科大学病院輸血部 担当者：技師長 （氏名）片井 明子 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又 1 番地 1 電話 0561-62-3311（内線 36212）